

平成26年度全国学力・学習状況調査における熊谷市の結果の概要について

◇本市調査結果の概要◇

【教科調査の概要「全般」】

- 小学校国語Bは、すべての設問の正答率が全国平均を上回りました。国語A・算数A・Bは、一部の問題を除き、ほとんどの設問の正答率が全国平均を上回りました。また、中学校国語A・Bは半数以上の設問の正答率が全国平均を上回りました。
- 小学校も中学校も、算数・数学よりも国語の正答率が高い傾向にあり、今後、算数・数学の学力を高めていく手だてを計画的に講じていくことが必要だと考えております。

【教科調査の概要「国語」】

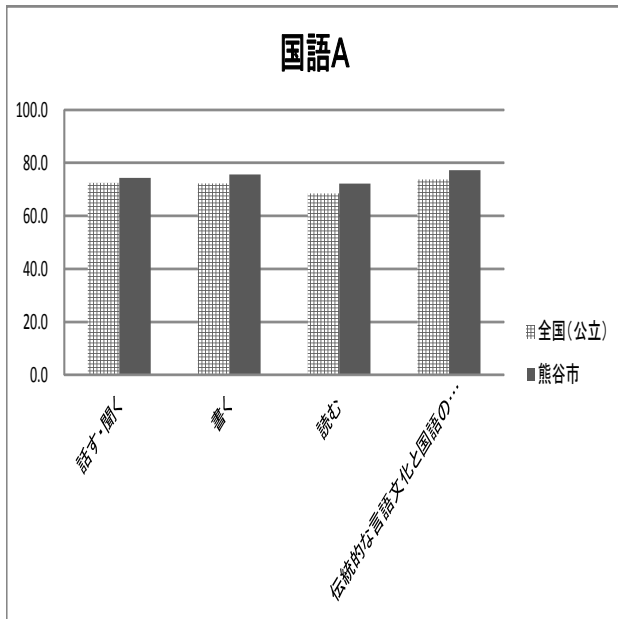
- 小学校では、「文の意味のつながりを捉えること」や「詩の表現の工夫を捉えること」、「複数の事柄を並列の関係で書くこと」などが、よくできていました。
一方、「立場を明確にして質問や意見を述べること」や「分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらを関係付けながらまとめて書くこと」などについては、課題が見られました。
- 中学校では、「文章全体と部分との関係を考え、内容を理解すること」や「心情が相手に効果的に伝わるように、描写を工夫して書き加えること」、「登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解すること」などが、よくできていました。
一方、「資料から適切な情報を得て、伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書くこと」や「根拠を明確にして自分の考えを書くこと」などについては、課題が見られました。

【教科調査の概要「算数・数学」】

- 小学校では、主として知識に関するA問題において、「数と計算」、「数量関係」の領域がよくできており、計算の能力が着実に身に付いていることがうかがえました。
一方、「示された情報を基に必要な量と残りの量の大小を判断し、その理由を記述すること」や「示された情報を整理し、筋道を立てて考え、小数倍の長さの求め方を記述すること」などについては、課題が見られました。
- 中学校では、主として知識に関するA問題において、「数と式」の領域が比較的よくできておりました。また、「対称軸が与えられたときに、線対称な図形を完成すること」なども、よくできていました。
一方、全国の傾向と同様に、「数量の大小関係を不等式に表すこと」や「度数分布表から相対度数を求めること」、「判断の理由や問題を解決する方法を説明すること」などについては、課題が見られました。

小学校国語A「主として知識に関する問題」の調査結果 【平成26年度】

領域ごとの調査結果（平均正答率）については、「話すこと・聞くこと」が約74%、「書くこと」が約76%、「読むこと」が約72%、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が約77%でした。



●話すこと・聞くこと 問題7

話合いの観点に基づいて情報を関係付け、話合いの記録の仕方として適切な選択肢を選ぶ問題の正答率は約74%でした。

●書くこと 問題3、6

仮定の表現として、文の意味のつながりを捉え、適切な選択肢を選ぶ問題の正答率は約86%でした。

これに対して、情景描写の効果を捉え、適切な選択肢を選ぶ問題の正答率は約63%でした。この結果から、主人公の心情を情景描写によって表現することで、表現の効果が高まるということの理解が課題となっています。

〈課題となっている問題例〉 問題3

- 1 良太の顔の表情
- 2 良太の心の中の声
- 3 良太の周りの風景
- 4 良太の行動

二人の会話の様子

南田 —— 部では、良太の気持ちを「さびしい」と表現したけど、「さびしい」という言葉を使わずに、うまく表現できないかな。

橋本 それはいいね、その気持ちを（ ）で表したらどうだろう。

南田 それはいいね。（しばらく考える。）

では、「いつの間にか灰色の雲が広がり、公園はだんだんと暗くなってきました。」としたらどうかな。

橋本 そうだね、そのように書きかえると、「さびしい」という言葉を使わなくても、読み手に良太の気持ちや様子を想像させることができると思うよ。

（会話が続く）

小国A-4

●読むこと 問題4、5

新聞の投書を読み、表現の仕方を捉え、適切な選択肢を選ぶ問題の正答率は約78%でした。

これに対して、物語の登場人物の相互関係を捉え、物語の一部に入る適切な人物の名前を選ぶ問題の正答率は約67%でした。この結果から、「会話描写に着目し、前後の文脈から登場人物の相互関係を判断して読むこと」が課題となっています。

●伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 問題1、2、3、6、8

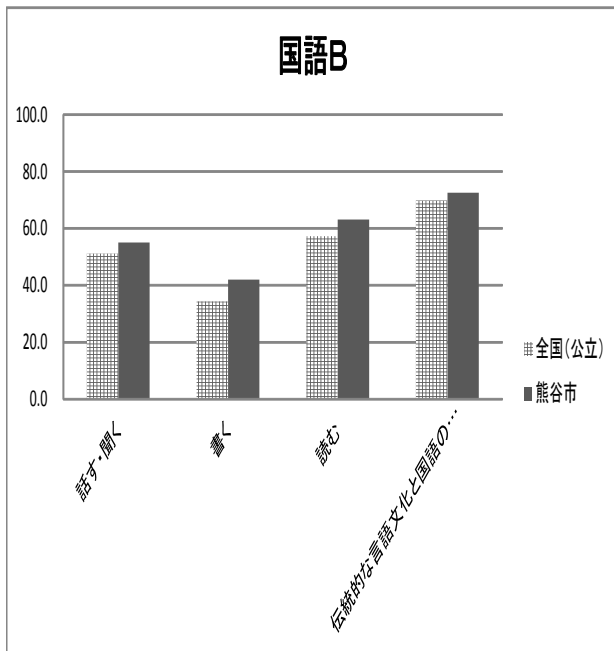
漢字の読み書きでは、「読み」が約84%、「書き」が約80%の正答率でした。

また、故事成語の意味と使い方については、約65%の正答率でした。

ここでは、なじみのある故事成語と、そうでない故事成語による正答率の差が課題となっています。

小学校国語B「主として活用に関する問題」の調査結果 【平成26年度】

領域ごとの調査結果（平均正答率）については、「話すこと・聞くこと」が約55%、「書くこと」が約42%、「読むこと」が約63%、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が約73%でした。



●立場や意図をはっきりさせながら討論する
目的に応じて、話し合いの観点を整理し、発言の内容をまとめて書く問題の正答率は約69%でした。

一方、立場を明確にして、質問や意見を記述する問題の正答率は約33%にとどまり、課題となっています。

●科学に関する本や文章などを効果的に読む

付箋に書かれた内容を関係付けながら、最初にもった疑問を捉える問題の正答率は約78%でした。また、課題を解決するために、目次や索引を活用して、必要となるページの番号を書く問題の正答率は約72%でした。

一方、分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらを関係付けながらまとめて書く問題の正答率は約34%でした。

平成25年度の本調査においても、同系の「目的や意図に応じ、複数の内容を関係付けながら自分の考えを具体的に書く」問題での正答率は高くはなく、引き続き、課題となっています。

●詩を比べて読む

詩の表現の工夫を捉える問題の正答率は、約82%でした。

これに対し、詩の解釈における着眼点の違いを捉える問題の正答率は約54%にとどまりました。また、二つの詩を比べて読み、自分の考えを書く問題の正答率も約59%にとどまっております。語感や言葉の使い方も課題となっています。

〈課題となっている問題例〉 問題3

三 あなたは、「詩1」と「詩2」を比べて読んで、どのようなことを考えましたか。次の条件に合うように書きましょう。

（条件）

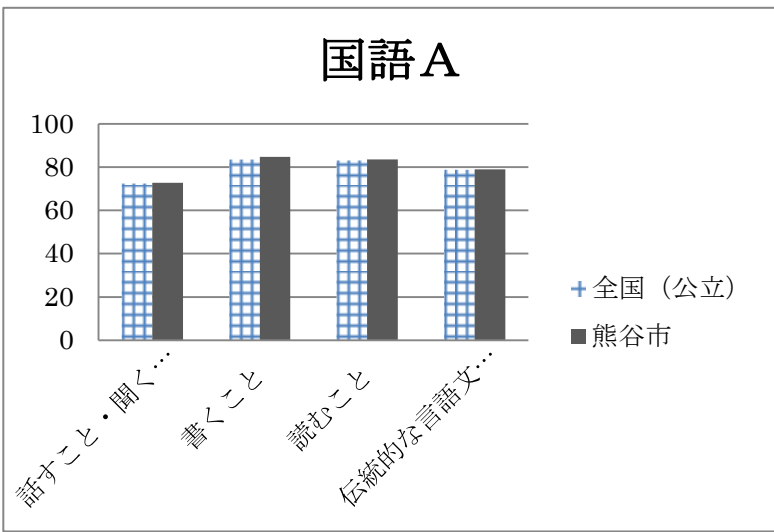
- 詩の内容や表現の仕方などについて、共通点やちがう点を取り上げて書くこと。
- 「たんぼ」と「まど・みちお」の両方の言葉を使って書くこと。
- 八十文字以上、百字以内にもとめて書くこと。

※左の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。
※◆の印から書きましょう。どちらの行でも行を変えないで、続けて書きましょう。

100字 80字

小国B-16

領域ごとの調査結果については、「話すこと・聞くこと」が約73%、「書くこと」が約85%、「読むこと」が約84%、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が約79%でした。



●話すこと・聞くこと ●問題1、6
説明のための資料として適切なものを選択する問題や、報告の内容を踏まえた質問として適切なものを選択する問題については、約80%の正答率でした。また、話し合いの方向を捉えた司会の役割として適切なものを選択する問題は約77%の正答率でした。

しかし、二人の発言を聞いて、意見の相違点を整理する問題は、約54%の正答率で課題となっています。

●書くこと ●問題2、4、7
心情が相手に効果的に伝わるように、描写を工夫して書き加える問題や、集めた材料を分類整理する問題については、約93%の正答率でした。
しかし、文章の構成を変える理由として、適切なものを選択する問題については、約75%と課題となっています。

●読むこと ●問題3、5
読むことの問題については、登場人物の心情や行動に注意して読み内容を理解する問題は、約93%の正答率でした。一方、文脈の中における語句の意味の理解の問題については約78%の正答率で、課題となっています。

●伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 ●問題8
漢字の読み書きでは、「読み」が約87%、「書き」が約64%であり、「書き」の指導にさらなる工夫改善が求められます。

〈課題となっている問題例〉 6 話し合いをする

6 岩田さんの学級では、卒業文集の題名を決めています。次は、話し合いの内容を整理した【黒板】と【話し合いの一部】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【黒板】

| | | | |
|-----|--------|---------------------|------------------|
| | 候補 | メモリー ～いつも胸に友がいた～ | はばたき ～さすなを胸に～ |
| 整理 | | | |
| 共通点 | 学級の団結力 | | |
| 相違点 | 過去の思い出 | | |

【話し合いの一部】

前田：題名の候補を「メモリー」と「はばたき」と「はばたき」と「はばたき」にききさすなを胸にに」に決めました。今日は、題名を決定します。まず、それぞれの題名の黒板名から再度意見を聞きまします。そして、話し合った決めます。それでは、南さんからお願いします。

南：「メモリー」と「はばたき」がよいと考えます。修学旅行や合宿などの思い出を記録するものが文庫だからです。読み返すたびに思い出した過去を思い出すことができます。学級でいつも団結できたことも表せます。

高橋：「はばたき」を黒板にするには、二つあります。一つは「未来にはばたいていく私たちの姿を表す題名だからです。二つめは、何事も困難して取り進んだ学級のこと「さすな」という言葉に込められているからです。

二 このあと、司会の岩田さんは、どのように話し合いを進めていけばよいですか。次の1から4までのうち、最も適切なもの一つを選びなさい。

1 題名の候補を他にも複数挙げさせ、これまでの二つの案と比べてそれぞれのよさを述べさせる。

2 どちらの題名がよいかすぐに手を挙げさせ、その結果を参考に最終的に司会が決定する。

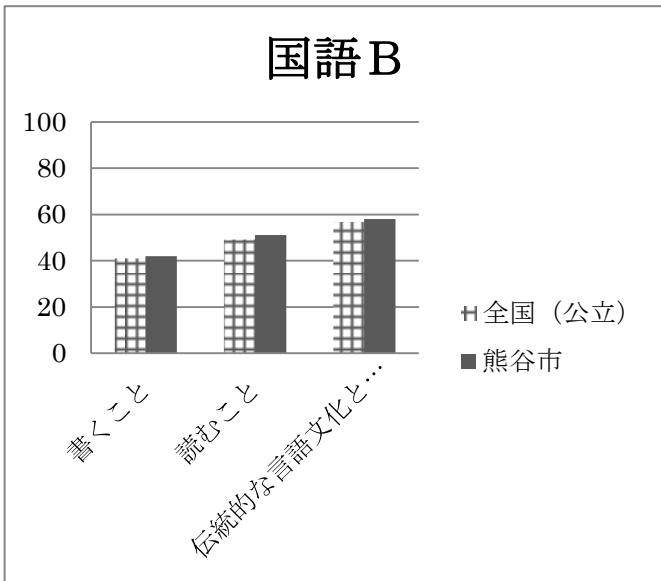
3 それぞれの題名に賛成する人たちがグループを作り、そこで出た意見を次回までに整理する。

4 黒板の共通点を整理し、相違点について他の人から質問や意見を求めて題名を一つに絞る。

語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う問題については、おおむね80%以上でしたが、ことわざの問題は約59%の正答率で課題となっています。歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題は、約79%の正答率でした。一方、辞書を活用して語句の意味を適切に書く問題は約60%の正答率で課題となっています。

中学校国語B 主として「活用」に関する問題の調査結果【平成26年度】

領域ごとの調査結果については、「書くこと」約42%、「読むこと」約51%、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が58%の正答率でした。



●読書についての標語を考える ●問題1

標語に使用されている表現の技法として、適切なものを選択する問題の正答率は約65%でした。また、標語から伝わってくるメッセージを書く際に気をつけたこととして、適切なものを選択する問題の正答率は約63%でした。これは、全国の平均約59%を4ポイント上回る成績となっています。

ノートを基に、標語から伝わってくる〈メッセージ〉と〈表現の工夫とその効果〉を書く問題の正答率は約51%で課題となっています。

〈課題となっている問題例〉問題2三

三 封筒に貼ってある切手を水の中にしぼり浸しておく、きれいにはがすことができますようになります。その理由を次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 「切手」、「液体」、「アンカー効果」という言葉を全て使って書くこと。

条件2 二十字以上、五十字以内で書くこと。

※ 左の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

●説明的な文章を読む(接着剤) ●問題2

本やインターネットの内容から答えが得られるものとして、適切なものを選択する問題の正答率は約66%でした。これは、全国の平均約61%を5ポイント上回る成績となっており、指導の成果であると考えます。

一方で、複数の資料を比較して読み、要旨を捉える問題の正答率は約33%、資料から適切な情報を得て、伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書く問題の正答率は約28%でさらなる指導の充実が求められます。

●落語について考える(「目黒のさんま」)

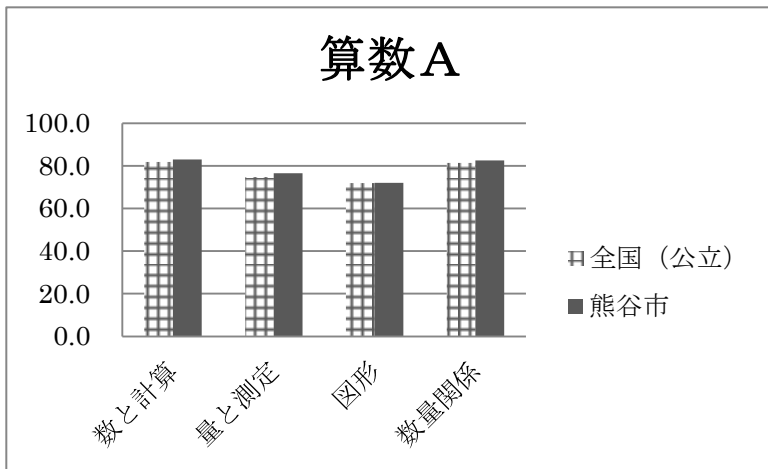
●問題3

落語に登場する人物の言動の意味を考え、その姿を想像する問題の正答率は、約69%でした。これは、全国の平均約67%を2ポイント上回っています。演者が顔を向ける方向として適切なものを選択する問題の正答率は、約51%でした。

一方で、落語に表れているものの見方や考え方について、根拠を明確にして自分の考えを書く問題の正答率は、約47%で課題となっています。

小学校算数A 主として「知識」に関する問題の調査結果【平成26年度】

領域ごとの調査結果については、「数と計算」約83%、「量と測定」約77%、「図形」約72%、「数量関係」約83%の正答率でした。



●数と計算●問題1、2、3

整数の加法や乗法、商が小数になる除法、異分母分数の加法の計算はいずれも90%を上回る正答率でした。また、小数第1位までの減法の計算も85%を上回る正答率でした。

しかし、示された図を基に、0.4倍に当たるテープの長さを求める式を選ぶ問題の正答率は約55%、示された分数の中から、 $1/2$ より大きいものを選ぶ問題の正答率は約70%であり、基準量・比較量・割合の関係についての理解や、分数

の相等及び大小についての理解が課題となっています。

●量と測定●問題4、5

8 m^2 に16人いるAの部屋の様子を表している図を選ぶ問題の正答率は約83%、 1 cm^3 の立方体を基に示された直方体の体積を求める問題の正答率は約85%でした。

しかし、 8 m^2 に16人いるAの部屋について、 1 m^2 あたりの人数を求める式を書く問題の正答率は約62%であり、単位量当たりの大きさの求め方の理解が課題となっています。【問題例参照】

●図形●問題5、6、7

直径6cmの円の円周を求める式と答えを書く問題の正答率は約83%でした。

しかし、コンパスを使った平行四辺形のかき方について、用いられている平行四辺形の特徴を選ぶ問題の正答率は約51%、縦5cm、横11cm、高さ4cmの直方体の面⑦になる四角形を選ぶ問題の正答率は約74%であり、作図に用いられている図形の約束や性質の理解や、立体図形とその見取図の辺や面のつながりや位置関係についての理解が課題となっています。

●数量関係●問題8、9

答えが $100 - 20 \times 4$ の式で求められる問題を選ぶ問題の正答率は約83%、正五角形の1辺の長さを□cm、まわりの長さを△cmとしたときの、□と△の関係を正しく表している式を選ぶ問題の正答率は約81%でした。

《課題となっている問題例》 4 異種の二つの量の割合

4

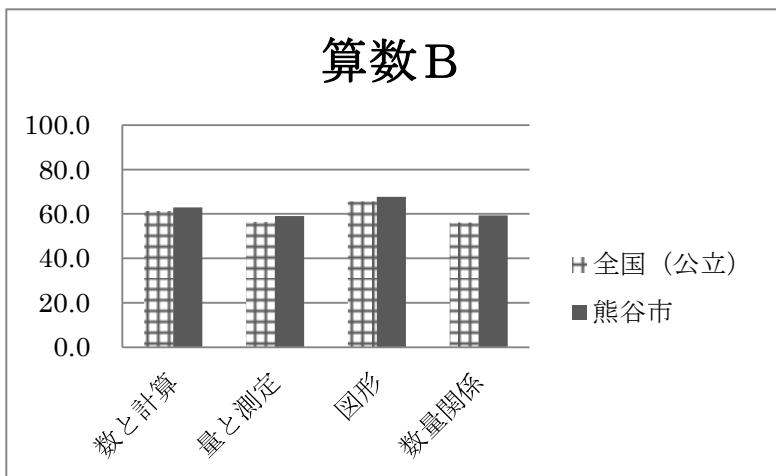
Aの部屋の 1 m^2 あたりの人数を調べます。
Aの部屋の面積は 8 m^2 で、部屋の中には16人います。

(1) Aの部屋の様子を表している図はどれですか。下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。
ただし、●は1人を表します。

(2) Aの部屋の 1 m^2 あたりの人数を求める式を書きましょう。
ただし、計算の答えを書く必要はありません。

小学校算数B 主として「活用」に関する問題の調査結果【平成26年度】

領域ごとの調査結果については、「数と計算」約63%、「量と測定」約59%、「図形」約68%、「数量関係」約59%の正答率でした。



●数と計算●問題1、2、3、4、5

示されたかけ算の中で積に同じ数字が並ぶものを選ぶ問題の正答率は約95%でした。

しかし、二人の説明を基に、 37×24 の積が888になることを書く問題の正答率は約58%、40人分のご飯を分けるとき、10人分の目安を正しく表している図を全て選ぶ問題の正答率は約60%、使いやすい箸の長さの目安を基に、一あたまの長さを表している図を選ぶ問題

の正答率は約43%であり、与えられた情報を解釈したり、判断したりすることが課題となっています。

●量と測定●問題2、3

6・7月の水の使用量 1500m^3 は、プールに入る水の量 250m^3 の何倍かを求める式と答えを書く問題の正答率は約85%でした。

しかし、昨年の昼食時間を見直したときに、今年は準備の時間を何分間にすればよいかを書く問題の正答率は約40%、示された分け方でスープを分けたとき、残りの30人にスープを分けることができるかどうかを選び、そのわけを書く問題の正答率は約30%であり、与えられた図や表、グラフを基に判断したり、その理由を説明したりすることが課題となっています。【問題例参照】

●図形●問題5

畳の敷き方の約束を基に、残り4枚の長方形の板を置いた図をかく問題の正答率は約68%であり、示された条件を的確にとらえることが課題となっています。

●数量関係●問題1、2、4、5

1目盛りを 50m^3 として学校の水の使用量の表を棒グラフに表すとき、棒が縦20マスの枠の中に入らない月を選び、そのわけを書く問題の正答率は約74%でした。

しかし、㊦のリズムを3回目に演奏するのは何小節目かを書く問題の正答率は約64%、妹の身長を基に、妹の使いやすい箸の長さの求め方と答えを書く問題の正答率は約35%であり、与えられた情報を基に問題を解決し、その方法を説明することが課題となっています。

〈課題となっている問題例〉 3|3

情報の整理・選択と判断の根拠の説明(配膳)

かつやさんたちは、宿泊学習に来ています。

(3) ともみさんは、右のような入れ物に入っているスープを分ける係になりました。

ともみさんは、玉じゃくし1ばいを1人分として、40人に分け始めました。すると、分ける前と10人に分けた後では、下の図のようになりました。

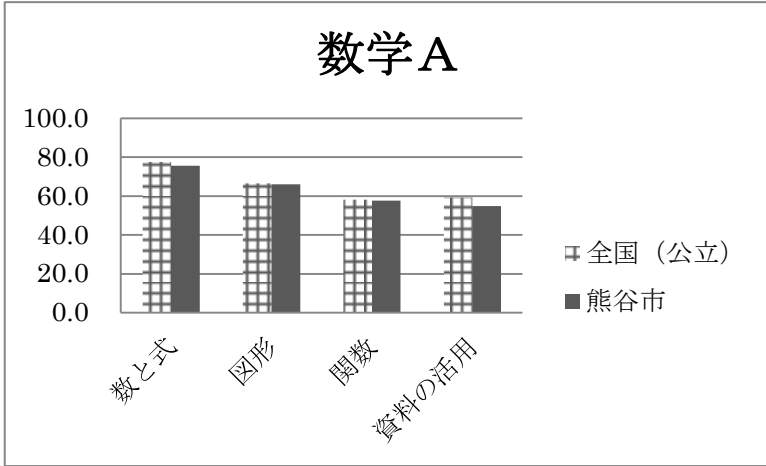
この分け方で、残りの30人にスープを分けることができますか。次の1から3までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。また、その番号を選んだわけを、言葉と数を使って書きましょう。

- 1 足りなくなって、分けることができない。
- 2 残さず分けることができる。
- 3 分けることはできるが、残る。

中学校数学A 主として「知識」に関する問題の調査結果【平成26年度】

領域ごとの調査結果については、「数と式」約76%、「図形」約66%、「関数」約58%、「資料の活用」約55%の正答率でした。

●数と式●問題1、2、3



分数の除法、正の数と負の数の意味、数量を文字式で表すこと、文字式の計算などについては80%を上回る正答率でした。

しかし、 $2 \times (-5^2)$ を計算する問題の正答率は約65%、「プールの水の深さは120cm以下である」という数量の関係を不等式に表す問題の正答率は約38%、一元一次方程式 $\frac{x-1}{3} = 2$ を解く問題の正答率は55.1%であり、負の数や指数を含む問題の計算や、数量の関係を式

に表すこと、等式の性質を正しく理解して方程式を解くことが課題となっています。

●図形●問題4、5、6、7、8

線対称な図形を完成する問題の正答率は約94%、三角形をそれと垂直な方向に一定の距離だけ平行に動かしてできる立体の名称を選ぶ問題の正答率は約86%でした。

しかし、与えられた角が回転移動した後の角を選ぶ問題の正答率は約40%、円柱と円錐の体積を比較し、正しい図を選ぶ問題の正答率は約37%であり、2つの図形を見比べて対応や関係を読み取ったり、理解したりすることが課題となっています。

●関数●問題9、10、11、12

与えられた表を基に、宅配サービスの重量と料金の関係を、「…は…の関数である」という形で表現する問題の正答率は約37%、 $x=2$ 、 $y=6$ の比例の式を求める問題の正答率は約52%、反比例のグラフから表を選ぶ問題の正答率は約45%であり、関数の意味や比例・反比例の関係についての基礎的な理解が課題となっています。

●資料の活用●問題13、14

画びょうを投げた実験結果から、上向きになる確率を選ぶ問題の正答率は約75%でした。

しかし、生徒60人の通学時間の分布を表した度数分布表から、ある階級の相対度数を求め問題の正答率は約32%、ハンドボール投げの記録の分布を表したヒストグラムから、記録の中央値を含む階級を選ぶ問題の正答率は約47%であり、中学1年生で学習した、度数分布表やヒストグラムについての知識・技能が課題となっています。

〈課題となっている 問題例〉13(1) 相対度数の求め方

13 次の(1)、(2)の各問いに答えなさい。

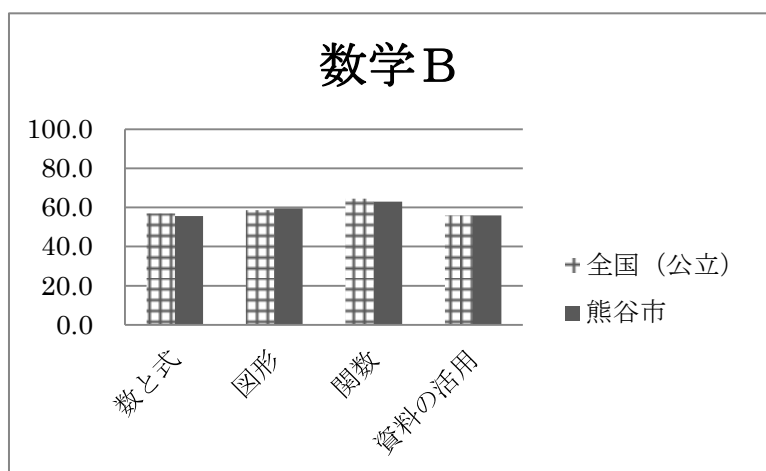
(1) ある中学校の3年生に対して、通学時間を調査しました。下の度数分布表は、その結果をまとめたものです。

3年生の通学時間

| 階級(分) | 度数(人) |
|---------------|-------|
| 以上 未満 0～10 | 5 |
| 10～20 | 9 |
| 20～30 | 14 |
| 30～40 | 18 |
| 40～50 | 11 |
| 50～60 | 3 |
| 合計 | 60 |

30分以上40分未満の階級の相対度数を求めなさい。

領域ごとの調査結果については、「数と式」約56%、「図形」約60%、「関数」約63%、「資料の活用」約56%の正答率でした。



●数と式●問題2

2つの偶数の和は偶数になることの説明を完成するために、式 $2m + 2n$ を変形する問題の正答率は約59%、2つの偶数の商についての正しい記述を選び、その理由を説明する問題の正答率は約43%であり、与えられた説明の筋道を読み取り、式を適切に変形することで、その説明を完成したり、予想された事柄の成否を判断し、その理由を説明することが課題となっています。

●図形●問題1、4

案内図を基に、経路を示すはり紙を選ぶ問題の正答率は約78%、三外から校舎を見た図で、案内図に示された非常口の位置を選ぶ問題の正答率は約93%でした。

しかし、2つの線分の長さが等しいことを証明する問題の正答率は約42%、 $\angle BAC = 110^\circ$ 、 $BD = AD$ のとき、 $\angle DAE$ の大きさを求める問題の正答率は約23%であり、図形の性質を、構想を立てて証明することや、付加された条件の下で証明を振り返って考え、事柄を用いることが課題となっています。

【問題例参照】

●関数●問題3、6

与えられた表やグラフから、人数が24人のときに6.0秒かかったことを表す点を求める問題の正答率は約87%、兄の速さを変えないとき、弟と兄の進む様子を表したグラフを選ぶ問題の正答率は約79%でした。

しかし、兄の出発時間を変えないとき、兄の進む様子を表すグラフの両端の2点を求め、そのグラフから兄の速さを求める方法を説明する問題の正答率は約29%であり、グラフの特徴を事象に即して解釈したり、結果を改善して問題を解決する方法を説明したりすることが課題となっています。

●資料の活用●問題5

スティックゲームの遊び方を基に、1本表、3本裏のときの得点を求める問題の正答率は約80%でした。

しかし、1点と2点のとりやすさについての正しい記述を選び、その理由を確率を用いて説明する問題の正答率は約32%であり、不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を説明することが課題となっています。

〈課題となっている 問題例〉 4

構想を立てて証明し、証明を振り返って考えること
(2つの二等辺三角形)

4 下の図のように、 $AB = AC$ の二等辺三角形 ABC の辺 BC 上に $BD = CE$ となる点 D 、点 E をそれぞれとります。

次の(1)、(2)の各問いに答えなさい。

(1) $AD = AE$ となることを証明しなさい。

(2) $\angle BAC = 110^\circ$ 、 $BD = AD$ のとき、 $\angle DAE$ の大きさを求めなさい。

「学習指導改善のための今後の方策」

小学校国語

●主として「知識」に関する問題の調査結果から●

「話すこと・聞くこと」については、話合いの観点に基づいて情報を関係付けて話し合い、話合いのポイントを記録できるよう、指導の充実を図ります。

「書くこと」については、物語等を書く際に、主人公の心情を情景描写によって表現することで、表現の効果が高まるということを実感できるよう、指導の充実を図ります。

「読むこと」については、会話描写に着目し、前後の文脈から登場人物の相互関係を判断して読む力を高めることができるよう、指導の充実を図ります。

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、故事成語にふれる機会を増やし、適切に使えるようになるよう、指導の充実を図ります。

●主として「活用」に関する問題の調査結果から●

立場を明確にして、質問や意見を記述する力や、分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらに関係付けながらまとめて書く力が高めるなど、指導を工夫します。また、複数の文章を比べて読み、自分の考えを書く力が高めるなど、指導を工夫します。

中学校国語

●主として「知識」に関する問題の調査結果から●

「話すこと・聞くこと」については、話合いの目的を踏まえて、出された意見をどのように整理すればよいかということを考えられるよう、指導の充実を図ります。

「書くこと」については、根拠を明確にして、自分の考えを具体的に書くことができるよう指導の充実を図ります。

「読むこと」については、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」との関連を図りつつ、文脈の中における語句の意味を正確に捉え、必要な情報を正確に読み取ることができるよう、指導の充実を図ります。

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、言葉への関心を高め、言語感覚を豊かにするために、辞書を積極的に活用するよう、指導の充実を図ります。

●主として「活用」に関する問題の調査結果から●

複数の資料を読んで要旨を捉えたり、必要な情報を正確に読み取ったりする力が高めるなど、指導を工夫します。また、資料から適切な情報を得て、伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書く力を高めるなど、指導を工夫します。

「学習指導改善のための今後の方策」

小学校算数

●主として「知識」に関する問題の調査結果から●

「数と計算」については、基準量と比較量の関係に基づいて演算の決定ができるようにするため、基準量と比較量の関係を観察し、的確に捉えさせるよう、指導の充実を図ります。

「量と測定」については、既習のわり算の意味と関連付けて、単位量当たりの大きさを求める式を理解できるようにするため、具体的な操作や図を示し、除法の式を捉えさせるよう、指導の充実を図ります。

「図形」については、作図の操作と図形の性質を関連付けて作図の意味を理解できるようにするため、例えば平行四辺形の作図において、コンパスを用いて等しい長さを写し取っていることが、平行四辺形の性質「向かい合う辺が等しいこと」を用いていることに気付かせるよう、指導の充実を図ります。

「数量関係」については、数量の関係を記号を用いて式に表すよさを理解するため、□、△などの記号を用いて式に表すと、数量の関係が簡潔、明瞭、的確に、また一般的に表すことができることを実感させるよう、指導の充実を図ります。

●主として「活用」に関する問題の調査結果から●

示された情報に基づき判断し、その理由を言葉や数などを用いて記述できるようにするため、問題の解決に必要な情報を選択し、根拠となる事実を関連付けることで、解決の方法や判断の理由を説明させるなど、指導を工夫します。

中学校数学

●主として「知識」に関する問題の調査結果から●

「数と式」については、数量の関係を式に表すことができるようにするため、数量を式で表したり、式の意味を読み取ったりさせるよう、指導の充実を図ります。

「図形」については、柱体と錐体の体積の関係を、実感を伴って理解することができるようにするため、予想を立て、実験による測定を行って確かめさせるよう、指導の充実を図ります。

「関数」については、関数の意味を正しく理解させるため、2つの数量の関係を調べ、「△△は〇〇の関数である」という形で表現させるよう、指導の充実を図ります。

「資料の活用」については、相対度数や代表値などの必要性和意味を理解できるようにするため、資料の傾向を読み取り、説明させるよう、指導の充実を図ります。

●主として「活用」に関する問題の調査結果から●

証明の過程や結論を基に、発展的に考えることができるようにするため、与えられた性質を証明するだけでなく、条件を変えたり証明を読んだりすることを通して、新たな性質を見いださせるなど、指導を工夫します。